

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	公衆衛生学4	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	15時間
単位数	1単位	授業形態	講義		
教科書/教材	使用教科書「衛生学・公衆衛生学」、その項目ごとに必要な資料をプリントとして配付する。				
担当教員情報					
担当教員	小西 裕司		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師	
学習目的					
健康増進や疾病予防を学ぶことで、わが国における健康水準がより向上されることを理解するのがこの講義の目的である。人口統計、環境など幅広く国民福祉にかかわる事柄を学ぶ。日本人の平均寿命を世界の頂点へ至らしめた事実など、日本の公衆衛生活動は世界から注目されており、今後はこの水準を維持するためにより努力する姿勢が要求されることになる。生命の質Quality of Lifeを高め、それが高齢社会における国民医療費の抑制につながるなど、個人や集団が健康であることが社会貢献になることを将来の医療人として学生が考える機会とする。					
到達目標					
柔道整復師が予防と健康増進にいかにかかわることができるかを各項目ごとに学ぶ。予防指導は、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術であり、学ぶ内容としては環境衛生、感染症予防、健康教育、医療・看護サービスによる疾病の早期診断と悪化防止、衛生行政、医療制度および社会保障などを重視しながら進める。環境を整え、傷病を予防し、健康の保持増進をはかるという知識を蓄積していくのが学生がこの科目を学ぶための目標となる。					
教育方法等					
授業概要	教科書と最新の衛生統計を中心に授業を進めることが基本となる。特に疫学的統計では、国民の生活習慣がその結果を大きく左右することから、最新の動向を注意深く見守る必要がある。医療は日進月歩であり健康の維持・増進のために柔道整復師として必要な最新データの把握に努める。				
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	学校保健（出席停止と学齢期の被患率）		感染症予防のための出席停止・学級閉鎖の権限や児童生徒の被患率について理解する		
2回	産業保健（産業医と職業病対策）		労働安全衛生法に基づく必要事項と各労働に伴うおそれのある疾病について理解する		
3回	産業保健（労働災害と職場復帰）		労働災害の予防と補償ならびに認定権者である労働基準監督署について理解する		
4回	成人保健（三大死因と生活習慣病）		主に成人における三大死因とそれに関連する注意すべき生活習慣について理解する		
5回	高齢者保健（高齢者医療と介護保険）		主に高齢者の医療と介護における根拠法とその内容について理解する		
6回	精神保健（精神保健福祉法と精神疾患）		精神保健福祉法の意義と代表的な精神疾患について理解する		
7回	精神保健（精神疾患と入院方法）		代表的な精神疾患と患者を保護するための法に基づく入院方法の種類と特徴について理解する		
8回	前期7週までの振り返りと確認演習		1回～7回までの必要な知識が蓄積されているかを確認する		
9回	地域保健と国際保健		地域保健の重要性をprimary health careとアルマアタ宣言を中心として理解する		
10回	衛生行政と保健医療の制度		保健所の役割、社会保険の種類（主に医療保険）ならびに国民医療費の現状について理解する		
11回	医療の倫理と安全の確保		医療事故、医療過誤、危機管理、informed consentの重要性などについて理解する		
12回	疫学（疫学的統計の種類）		疫学における静態・動態統計や悉皆・標本統計ならびに人年法について理解する		
13回	疫学（疫学研究の方法と評価）		要因対照研究や患者対照研究ならびにevidence based medicineについて理解する		
14回	前期13週までの振り返りと確認演習		9回～13回までの必要な知識が蓄積されているかを確認する		
15回	まとめ		半期で取得した知識の確認と国家試験問題の過去における出題傾向の統計確認と解説		